

① 中学生は防災への提言として、どんなことを発表しましたか。記事中の言葉を使い、簡潔にまとめましょう。

パネルディスカッションで意見を述べる生徒。佐伯市の米水津中学校



米水津中で公開研究発表会

命を守る防災へ連携

県の防災教育モデル実践校として地震津波災害対策に取り組む佐伯市の米水津中学校（上野浩三校長、42人）は、公開研究発表会を開いた。夏休みに東日本大震災の被災地を訪れた生徒が佐伯市への提言を発表した他、地元区長や保護者らと防災について討論した。

ヨンには9人が登壇。区長や保護者からは「子どもの防災意識が高まり、家庭でも災害の話を増やすことが増えた」「中学生の力が発揮されるのは避難後。避難するまでは自分の命を守るための行動を優

夏休み、東日本被災地訪問

佐伯市へ“五つの提言”

米水津中学校は海に隣接するため、南海トラフ地震で最大津波高12mの津波が36分まで到達すると想定されている。災害時、地域の安全に役立つ生徒の育成を主題に実践的な活動に取り組んでいる。発表会は今月上旬にあった。2部構成で、全校生徒や県内の教育関係者、保護者ら約120人が参加。1部では、

学年ごとに津波のメカニズムや同地域で発生した津波の被害状況、防災キャンプの成果などを発表。▽避難しやすいよう上履をスリッパから運動靴にする▽全ての避難場所に備蓄倉庫やトイレを整備する▽垂直避難ができる場所を置付け、保護者や地域と連携した活動を進めていきたい

先してほしい」といった意見が出た。会場には生徒が制作した簡易トイレや常備している防災リュックなどを展示した。

同校は「来年度以降、防災教育を特色ある取り組みと位置付け、保護者や地域と連携した活動を進めていきたい」としている。

（守屋栄冬）

② 中学生の熱意に対し、地区の人はある願いを持っています。記事の中から読み取りましょう。

③ 学校、または家庭ではどんな防災対策をしていますか。